

HONDA

The Power of Dreams



VEZEL

PRESS INFORMATION 2013.12.19



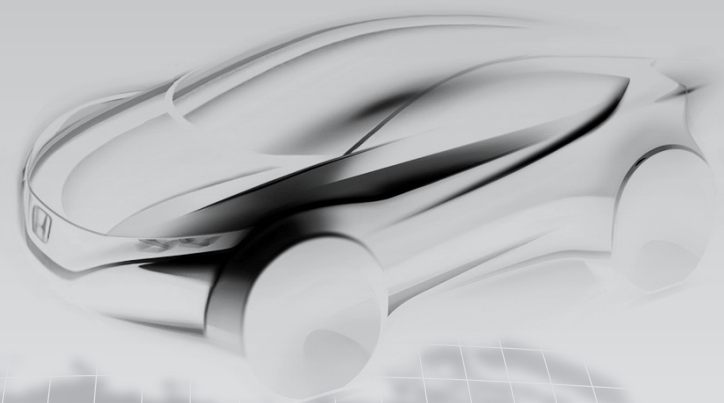
HONDA

世界中の人々と夢を分かちあうために。

Hondaは創業以来、
既成概念にとらわれない自由な発想と確かな技術で、
時代に先駆けた新しい価値を創造してきました。

そしていま、世界的なダウンサイジング傾向に応える新世代ビークルとして、
さまざまなクルマの魅力をコンパクトに凝縮した<ヴェゼル>を完成。
日本を皮切りに、順次グローバルに展開してまいります。

世界中の人々と夢を分かちあうために。
Hondaの新たなチャレンジに、どうぞご期待ください。



CONTENTS

開発にあたってP2	クロスオーバーパフォーマンスP14
コンセプトP3	先進装備P23
テクノロジーインデックスP4	安全性能P24
クロスオーバーデザインP5	主要装備P25
クロスオーバーパッケージP12	主要諸元／三面図／環境仕様P26

新時代のスペシャルティーカーを目指して。

<ヴェゼル>の開発にあたり、最初に思い浮かべたのは「スペシャルティーカー」という言葉でした。

1970年代から90年代にかけて人気を博したスペシャルティーカーは、ドライバーを主役とした室内と美しいスタイリングで、当時の主流であったファミリーセダンとは異なる魅力を放っていました。だからこそ、単なる移動の道具ではなく、豊かで上質な暮らしのパートナーとして、多くの人々に支持されたのだと思うのです。

こんにち、日本の自動車産業は成長し、優れたクルマを合理的につくれるようになりました。しかし、所有する喜びや使うほどに得られる満足感、合理性や効率の追求だけでは生まれません。開発では、「必要かどうか」ではなく、「魅力的なクルマとはなにか」を基準に、これまで上級クラスにのみ採用されてきた技術や装備を惜しみなく取り入れました。

社内には、「本当にそこまでするつもりか!？」という声もありましたが、私たちはけっして妥協することなく、Hondaの常識も慣例も打ち破って開発を進めました。「新しい時代のスペシャルティーカーをつくりたい」、「ちょっといい程度ではなく、けた違いに魅力的なクルマをつくろう」、という信念があったからです。その信念は、徐々に、そして確実に社内外の人々のところを動かし、これまでの概念を超える、「けた違いに魅力的なクルマ」を生み出しました。

私たちの夢を凝縮した<ヴェゼル>が、お客様の夢を乗せて走り出すことを願って、日本に、そして、世界に送り出します。

開発責任者 板井 義春



板井 義春 (いたい よしはる)
(株)本田技術研究所 主任研究員

1987年、(株)本田技術研究所入社。
ボディ設計、プラットフォーム開発を経て、
アコードを中心に数々の車種開発にたずさわる。
2007年、5代目インスパイアのLPL代行を担当。
今回、ヴェゼルのLPLを務める。
趣味は音楽鑑賞、ドライブ。愛車は2代目FIT。

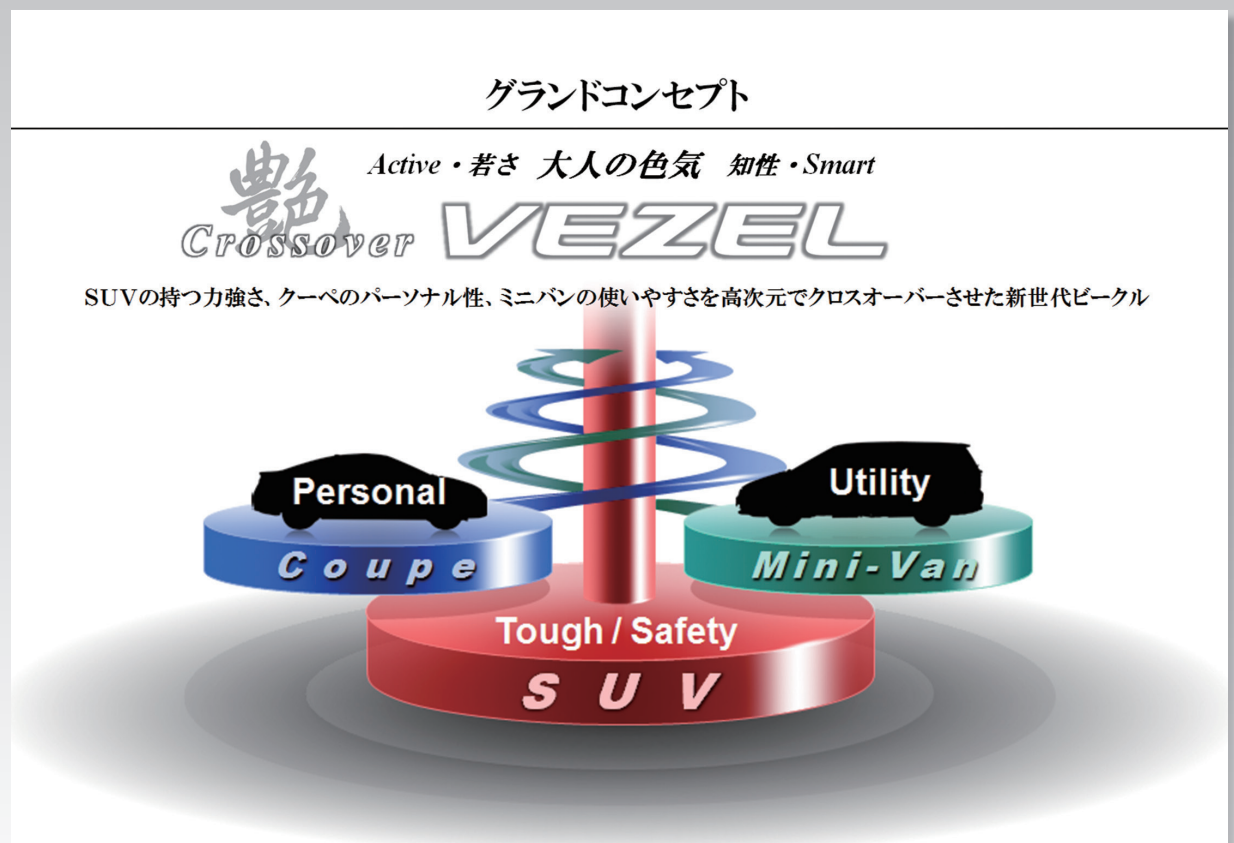
豊かで洗練された毎日のために、 多面的な価値を高次元でクロスオーバーさせた、新世代ビークル。

ダウンサイジング傾向が世界的に広がるこんにち、
Hondaは、新しいモビリティのあり方を追求。
取り回しのよいサイズのボディに、人々の感性に訴える美しさ、
クルマとしての多面的価値を凝縮した、
新世代ビークルの創造を目指しました。

開発は、「^{つや}艶・Crossover」をコンセプトに、
Hondaならではのアイデアと技術を駆使し、
SUVの持つ力強さと安心感、
クーペのあでやかさとパーソナル感、
そして、ミニバンの快適性と使いやすさを、
極めて高い次元で融合。
さらに、クラスやヒエラルキーといった概念を一切取り払い、
上級セダン同等の装備や仕立てを惜しみなく投入することで、
プレミアムな魅力とオールラウンドでの使いやすさを合わせ持つ、
〈ヴェゼル〉を完成させました。

ネーミングに込めた思い

英語で「カットした宝石の小さな面」を表す「Bezel」と、
クルマを意味する「Vehicle」を掛けあわせた造語。
角度によって表情を変える宝石のように
「多面的な魅力と価値を持つクルマ」という思いを込めました。



クロスオーバーデザイン P5~

<デザインコンセプト>

- クルマ本来の魅力である自由な移動と操る喜びを、力強く、美しく表現した、新時代のカーデザイン。

<エクステリアデザイン>

- SUVの力強さとクーペのあでやかさを、上質に磨き上げたスタイリッシュエクステリア。
- 細部にまで行き届かせた上質と洗練。

<インテリアデザイン>

- SUVの安心感とクーペのパーソナル感を融合したフロント席空間。
- アイデアと技術で実現した使いやすさと快適さ。
- 目指したものは、圧倒的な上質感。

<ボディカラー&インテリアカラー>

- ヴェゼルの洗練された世界観を表現する、ボディカラー&インテリアカラー。

艶
Crossover
VEZEL



クロスオーバーパッケージ P12~

<ボディサイズ/視界/乗降性>

- 取り回しのよいボディサイズに、広さと使いやすさを凝縮した、スマートパッケージ。

<ユーティリティ>

- 使いやすさと上質感を徹底追求した、ラゲッジルーム & 収納スペース。

クロスオーバーパフォーマンス P14~

<ダイナミクス性能コンセプト>

- 安心感を基本に、走りの楽しさと上質感を高次元で融合。

<ボディ>

- 高い安心感と上質な乗り心地をもたらす、軽量高剛性ボディ。
- ゆとりと上質が感じられる毎日のために、室内の静かさを徹底的に追求。
- 優れた燃費性能と安定感のある走りに貢献する、クラストップレベル^{※1}の空力性能。

<シャシー>

- 上質な乗り心地とリニアなハンドリングを高次元で両立した、先進のシャシーシステム。
- ドライブをスマートにアシストする先進機能。

<パワートレイン>

- 力強い走りと優れた燃費性能を両立した、新世代エンジンとCVT。
- 力強い走りとクラストップ^{※2}の低燃費を軽量コンパクトに両立した新世代1モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID i-DCD」^{※3}
- ハイブリッド車に、走りの楽しさをさらに広げるSPORTモードを搭載。リアルタイムAWD<インテリジェント・コントロール・システム>も設定。

先進装備/安全性能 P23~

- 毎日の安心感と快適性を高める先進装備。
- 「Safety for Everyone」をスローガンに、乗員はもとより、相手車両や歩行者にも配慮。

※1 1.5L~2.0LクラスのSUVとして、2013年11月現在、Honda調べ。
 ※2 SUVとして(EV、プラグインハイブリッド車を除く)。2013年11月現在、Honda調べ。
 ※3 i-DCDは、Intelligent Dual Clutch Drive(インテリジェント・デュアル・クラッチ・ドライブ)の略。

クルマ本来の魅力である自由な移動と操る喜びを、 力強く、美しく表現した、新時代のカーデザイン。

既存の概念やジャンルにとらわれず、クルマが表現すべき魅力を見つめ直すことからデザインをスタートしました。そのなかで、自由な移動と操る喜びというクルマの本質的価値に着目。エクステリアでは、SUVの力強さとクーペのあでやかさ、インテリアではクーペのパーソナル感とミニバンの快適性を、高次元で融合させました。さらに、基本造形から磨き上げた「素」の美しさと上質な仕立てによって、ドライブの楽しさやクルマを所有する喜びが感じられる、新時代のカーデザインを完成させました。

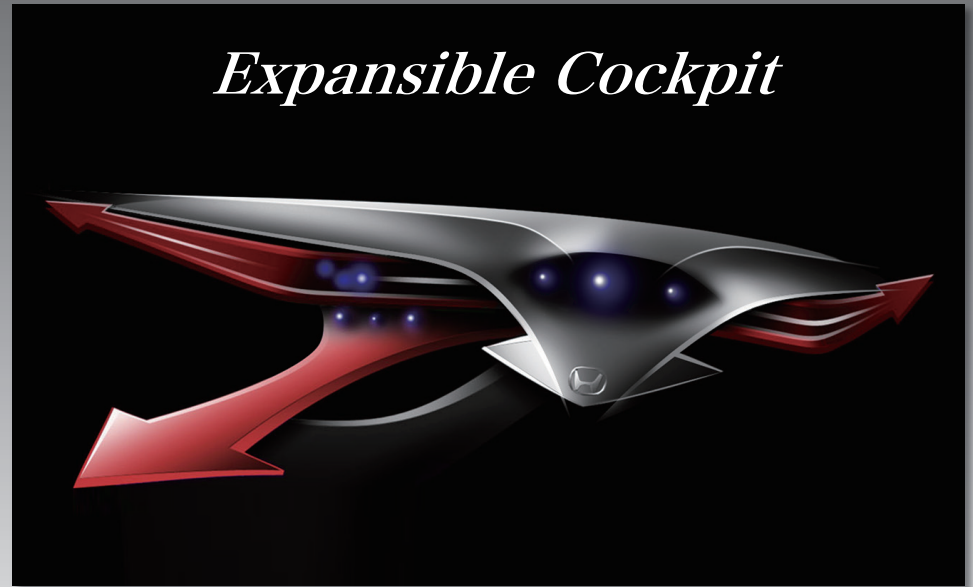
Dynamic Cross Solid



エクステリアデザイン

「Dynamic Cross Solid」をコンセプトに、安定感のあるロアボディとクーペライクなアッパーボディという、2つの塊を特徴的なキャラクターラインで融合。躍動感あふれるエモーショナルでスタイリッシュなエクステリアデザインを実現しました。

Expansible Cockpit



インテリアデザイン

「Expansible Cockpit」をコンセプトに、広さとパーソナル感の両立を追求。フロント席は、クリーンで広がりを感じさせるインストルメントパネルと、先進的で上質なハイデッキコンソールで、乗員それぞれに快適なパーソナル空間を創出。リア席は、ゆとりの足元空間と多彩なシートアレンジでミニバン同等の快適性と使いやすさを実現しています。

SUVの力強さとクーペのあでやかさを、 上質に磨き上げたスタイリッシュエクステリア。

SUVの力強さとクーペのあでやかさを融合しながら、乗る人が輝いて見えるスタイリッシュなエクステリアデザインを追求しました。ロアボディは、サイド面の豊かな抑揚とスタンスのよいタイヤ配置で安定感と安心感を強調。全周に配置したボディロアガーニッシュとドアパネルの立体造形で、力強さのなかに緻密さを表現しています。アッパーボディは、前後を絞り込んだスピンドルシェイプのエアロキャビンと、ノーズからルーフへつながる流麗なシルエットで、クーペのパーソナル感とあでやかさを表現しました。



Photo:HYBRID Z
ボディカラーはミスティグリーン・パール



力強さとエレガントさを両立させた高品位なフロントビュー

フロントフェースは、Hondaの新デザインアイデンティティー「ソリッド・ウイング・フェース」に則りながら、ヴェゼルならではの個性と存在感を追求。フロントグリルにダークなメタル調の表現を施し、透明感のあるヘッドライトと連続性を持たせました。フロント全体の造形は、大きく張り出したバンパーと厚みのあるロングノーズで力強さを強調しながらも、バンパー、ボンネット、フェンダーの洗練された面構成によって、エレガントさを兼ね備えた高品位なフロントビューを完成させています。

スポーティーな走りを予感させるダイナミックなサイドビュー

フロントドアからサイドウィンドウ後端に向けて、ボディをえぐるように駆け上がるダイナミックなキャラクターラインを採用。ロアボディとアッパーボディそれぞれの塊感を強調しながらもひとつの造形として巧みに融合し、これまでにないクロスオーバーフォルムを完成させました。また、サイドウィンドウの視覚的な重心をフロント席に置くことで、ドライバーズカーであることを強調。リアアウトワードアハンドルをウィンドウグラフィックスに溶け込ませ、2ドアクーペのパーソナル感とスポーティーイメージを高めています。

力強さのなかに軽快さを表現したリアビュー

左右に張り出させたコーナーと肉厚の造形でロアにボリュームを持たせ安定感を強調。タフネスを感じさせながらも、大きく前傾させたリアウィンドウと彫りの深いテールゲートで軽快感を表現しました。また、テールゲートスポイラーを全タイプに標準装備。サイドを折り下げたディフューザー形状とすることで、彫刻的な美しさを醸し出すとともに空力性能に貢献しています。

細部にまで行き届かせた上質と洗練。

人々を惹きつける魅力的なデザインは上質と洗練を細部にまで行き届かせることで完成する、という考え方のもと、ヘッドライトの灯体からドアハンドルまでひとつひとつのパーツを丁寧にデザイン。精緻な造形と素材感を重視した表現でヴェゼルの魅力を際立たせました。

ライトデザイン

LEDヘッドライト(タイプ別設定)

ロービームに、先進的で燃費性能にも寄与するLEDを片側2灯採用。ハウジングをブラックとし、深い奥行きの中から透明感のあるレンズが浮かぶ見え方としました。さらに、ライン状のインナーレンズを組み合わせ、シャープでエレガントな表情としています。



LEDリアコンビネーションランプ

全タイプのストップランプ&テールランプにLEDを採用しました。ハイブリッド車はLED導光ストライプとし、ワイド感を高めるとともに先進的で上質な表現としています。



Photo:
HYBRID X

アウトワードアハンドル

フロントアウトワードアハンドルに、プラチナ調クロームメッキを採用。光沢を抑えた深みのある輝きで、素材感や造形から醸し出される本質的な美しさを表現しました。リアアウトワードアハンドルは、ウインドウグラフィックスとインテグレートし、2ドアクーベのようなパーソナル感を表現しています。



プラチナ調クロームメッキ・フロントアウトワードアハンドル リアアウトワードアハンドル
(タイプ別設定)

ルーフレール(タイプ別設定)

ボディとの統一感が高い一体構造アルミ製ルーフレールを、Hondaとして初めて採用。押し出し成形による継ぎ目のない造形に加え、表面のヘアライン処理とクリア塗装によってアルミの素材感を引き立たせ、上質で洗練された見え方としています。



アルミホイール

17インチアルミホイール

形状が変化しながら広がるスポークで、力強さをエモーショナルに表現。スポークエンドの三角部を切削仕上げとし、上質さや美しさも加えました。
*HYBRID X・Lパッケージに標準装着。
HYBRID Xにメーカーオプション。



17インチアルミホイール(スポーツタイプ)

スポーティーな切削デザインとブラックカラーの組み合わせを採用。スポーク側面とリムの内側に細かい段差を与え躍動感をさらに高めました。
*HYBRID Z、ガソリン車のSに標準装着。



16インチアルミホイール

太さの異なるスポークのコンビネーションで安定感と躍動感を融合しました。
*HYBRID X、ガソリン車のXに標準装着。



SUVの安心感とクーペのパーソナル感を融合したフロント席空間。

インストルメントパネルは、豊かさと広がりのある造形としたうえで要素を徹底的に減らし、洗練された美しさと強さを表現。ワイドなカップルディスタンスとハイデッキセンターコンソールによって乗員それぞれのパーソナルエリアを明確にしなが、包み込むようにソフトパッドを配置することで、上質なクーペを思わせるフロント席空間を完成させました。

クーペのパーソナル感を目指したコクピット

運転席は、ハイデッキセンターコンソールとドライバー側に傾けたセンターパネルで、ドライビングのための空間であることを明確に表現。Hondaインテリアデザインの思想である「瞬間認知」「直感操作」を徹底し、表示系は視線が移動しやすい上方へ、操作系は自然に手が届く位置へ集中配置。操る楽しさを満喫できるコクピット空間を創出しました。



Photo:HYBRID X(FF)
メーカーオプション装着車

先進かつ多彩な表示機能を備えたメーター

ブラックフェースに光の輪が浮かんで見えるフローティングネオンリングと、文字盤が発光し浮かび上がる大径自発光式メーターを全タイプに採用しました。ハイブリッド車は奥行きを感じさせるホログラムイルミネーションにより、いつそうの先進感を表現。マルチインフォメーション・ディスプレイは、エネルギーフローをはじめとするさまざまな情報を的確に表示します。ガソリン車は3眼メーターとし、精緻でスポーティな印象に仕上げました。



ハイブリッド専用デザインメーター



常時発光式3眼メーター

●メーター類は撮影のため点灯。

小さな動作とわずかな力で操作できるスマートタッチインテリア

Hondaスマートキーシステムを標準装備し、パワーシステムの始動/停止を全タイプでスイッチ化。軽い操作で作動する電子制御パーキングブレーキやオートブレーキホールド機能に加え、軽くふれると3回点滅するワンタッチウインカーも全タイプに採用し、運転操作をスマートにサポートします。さらに、操作部に静電式タッチパネルを採用したフルオート・エアコンディショナーも標準設定。Honda インターナビ*同様、スマートフォン感覚の直感操作を実現しています。ハイブリッド車には専用シフトレバーを装備。スイッチ感覚の軽い操作でシフトチェンジが行えます。



Photo:HYBRID Z(FF)
メーカーオプション



1 パワースイッチ(ハイブリッド車)



2 フルオート・エアコンディショナー



3 Honda インターナビ



4 電子制御パーキングブレーキ



5 ハイブリッド専用シフトレバー



6 ワンタッチウインカー

アイデアと技術で実現した使いやすさと快適さ。

ハイデッキセンターコンソールによって生まれた空間を活用し、使い勝手のよいフロントコンソールポケットとマルチユーティリティドリンクホルダーを装備しました。小物類をスマートに収納できるうえ、さまざまな用途に対応しています。また、助手席側に、新開発のワイドフローエアコンを設け、シンプルで上質な見え方と乗員を包み込むようなマイルドな送風を実現しました。

ハイデッキセンターコンソール



Photo:HYBRID X(FF) メーカーオプション装着車

フロントコンソールポケット(LED照明付)

コンソール前部に、運転席からも助手席からもアクセスできるポケットを設けました。アクセサリソケットを備え、スマートフォンなどを充電しながら置くことができます。底部にはラバーマットを施し、すべりや傷つきにも配慮。Honda インターナビ装着車には、USBジャック(2カ所)とHDMI[®]ジャックも装備されます。



Honda インターナビ装着車

マルチユーティリティドリンクホルダー

コンソール中央には、ドリンクに応じて深さを可変できるマルチユーティリティドリンクホルダーを設けました。底面を押し下げれば深底となり、ペットボトル等を置いてもシフトレバーの操作性を損ないません。サイドにはワンタッチ式のフラップを備え、ショート缶など細いドリンクも安定して置くことができます。



■構造図

ワイドフローエアコン

全タイプにフルオート・エアコンディショナー^{*}を採用。助手席側に横一文字デザインのワイドフローエアコンを設け、シンプルで上質な見え方と快適な送風を実現しました。3分割構造としたうえで、バランスを考慮して各送風口の風量を設定。日射や外気温の影響を受けやすい外側を強く、乗員正面となる中央部を弱く、センターパネルに近い内側を中程度とし、乗員を包み込むようなマイルドな送風を実現しました。風向きはそれぞれで上下左右に調整可能。直風が苦手な方に配慮し、シャット時の密閉性も高めています。

^{*} HYBRID Zは左右独立温度コントロール式になります。

■送風イメージ図



■風向き調整イメージ図



目指したものは、圧倒的な上質感。

上質で快適な室内空間を目指し、乗員の手に触れるほとんどの箇所にやわらかな素材を採用。ソフトパッドにはクラフトマンシップを感じさせるステッチラインを施しました。また、インテリアランプにLEDを採用するなど、上質感を徹底追求。リアシートは、上級セダン同等の快適性を実現しています。

上質を追求したマテリアル



ステッチライン入りソフトパッド

インストルメントパネル正面をはじめ、コンソール側面、全アームレストにステッチライン入りのソフトパッドを採用。ドアアームレストは側面を含めた全面にソフトパッドを施し、上質感を高めました。



アッパー部全面表皮ドアライニング(前後)

乗員の肘が触れるセンター部のみならず、ドア上部全面にクッション層入り表皮を施したライニングをしつらえ、やわらかな触り心地と高級感のある見え方を実現。

ピアノブラック調パネル

ステアリングホイールガーニッシュ、エアコン操作パネルガーニッシュ、センターコンソール※に、質感の高いピアノブラック調パネルを採用しました。 ※ハイブリッド車のみ

快適な座り心地のリアシート

上級セダン同等の座面長としたうえ、シートバック角度を最適化。安心感が高く、ロングドライブでも疲れにくい着座姿勢を実現しました。



*シートバック角度はリクライニング位置を後方に設定した場合。

先進のLEDインテリアランプ

全タイプ、フロントマップランプとルームランプにLEDを採用。先進的な光で室内を上質に彩ります。



LEDフロントマップランプ



LEDルームランプ



ヴェゼルの洗練された世界観を表現する、 ボディカラー&インテリアカラー。

雰囲気やニュアンスといった人間の感覚を重視してカラーと素材をコーディネート。3つの新色を含む全8色のボディカラーと4タイプのインテリアカラーで、ヴェゼルの多面的な魅力と洗練された世界観を表現しました。

ボディカラー

エクステリアデザインの特徴であるSUVの力強さとクーペのあでやかさを際立たせるために、タフなイメージのなかにもエレガントな雰囲気を感じさせる3つのボディカラーを新たに開発しました。



●ルーセブラック・メタリック **NEW**

クリスマスローズの一種であるルーセブラックをイメージした魅惑的なカラー。ブラックのなかから紫がひそやかに浮かびあがり、妖艶とも言える色香を感じさせます。ブラックインテリアとのコーディネートを検討しました。



●モルフオブルー・パール **NEW**

「世界で最も美しい蝶」と言われるモルフオ蝶をイメージ。光の当たり方や見る角度によってブルーからパープルへと色相が変化します。顔料の配分を見極め絶妙な色の変化を実現しました。



●ミスティグリーン・パール **NEW**

赤みのあるグリーンを基調にゴールドを加味することで、重厚感のなかに爽やかさを表現。ジャズブラウンインテリアとのコーディネートを検討しました。



●プレミアムディープロッソ・パール



●ティントッドシルバー・メタリック



●ホワイトオーキッド・パール



●アラバスターシルバー・メタリック



●クリスタルブラック・パール

インテリアカラー

ブラック

しっとりしたソフトパッドと光沢の強いピアノブラック調パネルのコントラストによって、クールななかに華やかさとあでやかさを表現。シートに、形状を引き立てるファブリックを採用したブラックインテリア。



パッションブラック

ソフトパッドとピアノブラック調パネルに、コンビシートをコーディネート。すっきりとした柄のメイン材と革の風合いが、いつものあでやかさを感じさせるパッションブラックインテリア。



ジャズブラウン

ダークブラウンを基調に、オレンジブラウンのソフトパッドを採用。シートのメイン材にはゴールドのストライプをあしらいました。落ち着いたなかにアクティブさや遊び心が感じられる新感覚のジャズブラウンインテリア。



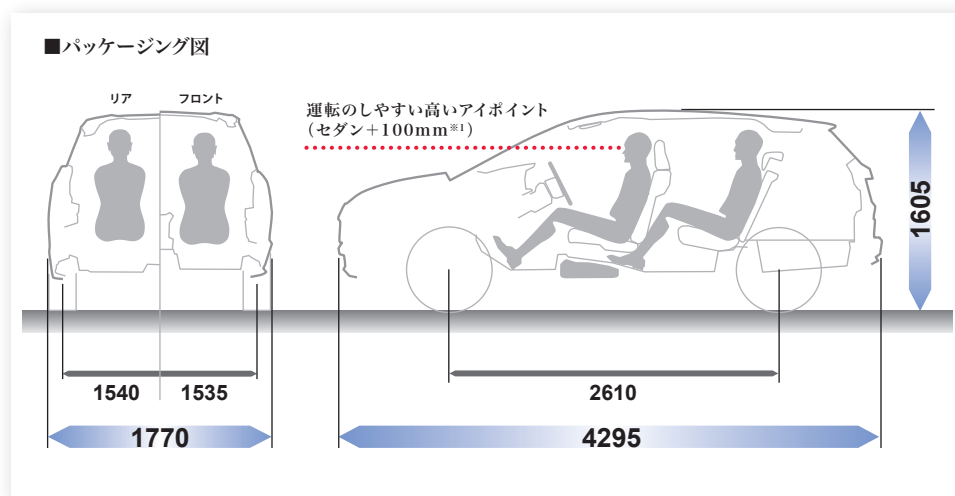
ブラックレザー(メーカーオプション)

パンチングレザーのアクセントが特徴的な、高級感あふれるブラックレザーインテリア。



取り回しのよいボディサイズに、 広さと使いやすさを凝縮した、スマートパッケージ。

「Smart Cross Package」をコンセプトに、取り回しのよいボディサイズとしながら、ミニバン並のリア席ひざまわり空間を実現。見晴らしのよさや乗り降りのしやすさも追求しました。



※1 一般的なセダンとの比較。Honda調べ。

● 単位=mm 数値はすべてHonda測定値。

ミニバン並のリア席ひざまわり空間

全長を取り回しのよい4,295mmとしながら、センタータンクレイアウトによってリア席の後方配置を実現。ミニバン並のリア席ひざまわり空間としました。



見晴らしがよく、ワイドで爽快な視界

空力や走行性能の観点から全高を抑えながら、見晴らしがよく安心感がある絶妙なアイポイント高さ(一般的セダンに対しプラス100mm^{※2})に設定。また、フロントピラーの幅と角度を最適化することで広い視野角を確保しました。



※2 Honda調べ。

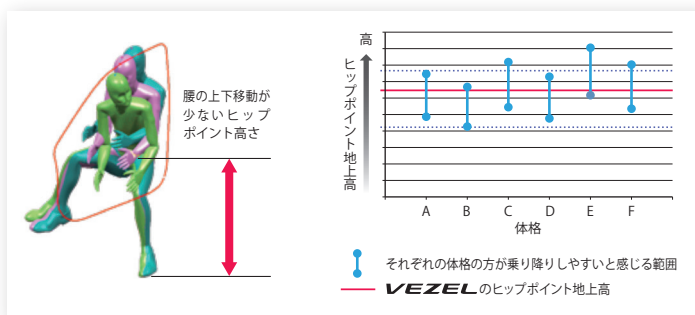
都市の細街路でも扱いやすい最小回転半径5.3m

上級SUV同等のホイールベースとしながら、エンジンなどのメカニズムをコンパクトに設計することで十分なタイヤ切れ角を確保し、都市の細街路や、駐車場、交差点でも扱いやすい、最小回転半径5.3mを実現しました。



乗り降りしやすいヒップポイント地上高

人間工学研究によって体格ごとの乗降性を検証。さまざまな体格の方が、腰の上下移動が少なく乗り降りしやすいと感じられるヒップポイント地上高に設定しました。



使いやすさと上質感を徹底追求した、ラゲッジルーム & 収納スペース。

センタータンクレイアウトが実現した低いラゲッジルームと多彩なシートアレンジで、ウイークデイからウイークエンドまで自在に使える荷室空間を実現。ラゲッジルームサイドには表皮を施すなど、豊かで洗練された毎日のパートナーとして、上質な仕立てを徹底しました。

驚きの使い勝手と上質な仕立てのラゲッジルーム

低く広くスクエアなフロアとすることで優れた使い勝手を実現。サイド面は、フェーエルパイプなどの内部レイアウトを工夫することでフラット化したうえ、不織布の表皮をしっかりと基材に巻きつけて上質に仕立てました。荷室容量は404L*1を確保。リア席使用状態で一般的なゴルフバッグ*2が3個積載可能です。



*1 ラゲッジルームアンダーボックスを含む容量。ハイブリッド車(FE)の場合。リアシートのリクライニング位置を前方に設定すると423Lになります。

さまざまなシーンに対応する多彩なシートアレンジ

リアシートをチップアップ&ダイブダウン機構付6:4分割可倒式とし、多彩なシートアレンジを実現しました。チップアップすれば、リアシートのあったスペースが高さ1,220mmの荷室空間となり、背の高い荷物の収納に便利。ダイブダウンすれば、床面長1,636mm、高さ830mm*5の広大な荷室が出現。マウンテンバイクを2台縦置きできます*6。リアシートをダイブダウンし、助手席をいっぱい倒せば長尺物にも対応。



*5 ハイブリッド車(FE)の場合。ガソリン車(FE)の荷室高は867mmでより背高の荷物が積載可能。
*6 前輪を外した状態。自転車等のサイズ・形状によっては積めない場合があります。写真は26インチMTBを使用。

積み降ろししやすい大開口テールゲート

開口幅は上級SUVを上回る1,180mmで、一般的なゴルフバッグ*2をスムーズに積み降ろし可能。開口長(上下)も900mmで、50インチテレビ*3を立てたまま積み降ろしできます。また、ハイライダーでありながらテールゲート開口地上高をクラストップレベル*4の低さである650mmに設定。重たい荷物もラクに積み降ろしできます。



*2 9.5インチのゴルフバッグ。形状によっては積載できない場合があります。
*3 形状によっては積載できない場合があります。
*4 1.5L~2.0LクラスのSUVとして、2013年11月現在。Honda調べ。

使いやすさを追求した充実の収納装備



グローブボックス

アームレスト付コンソールボックス

シートバックポケット(助手席)

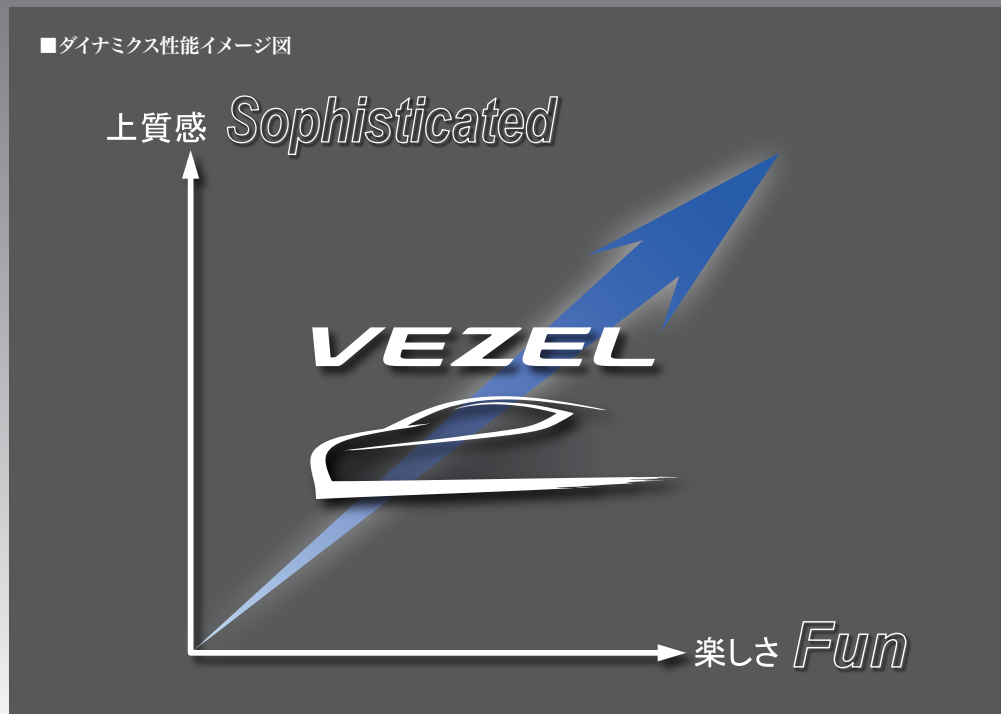
ドリンクホルダー(後席用)

ドアポケット(運転席/助手席)/
ボトルホルダー(全ドア)

ラゲッジルームアンダーボックス
写真はハイブリッド車(FE)

安心感を基本に、走りの楽しさと上質感を高次元で融合。

ダイナミクス性能は、「スマート & アクティブ」をコンセプトに、SUVが持つ安心感を基本としながら、走りの楽しさと上質感を高次元で融合。新世代パワートレイン技術「EARTH DREAMS TECHNOLOGY」を投入し、ハイブリッド車、ガソリン車ともに、クラストップレベル*の燃費性能を実現するとともに、軽量高剛性ボディや高性能シャシーなどによりセダンライクなドライビングフィールを獲得。さらに、上級仕様の吸音材や遮音材をぜいたくに採用し、走り出しから高速クルーズまでさまざまなシーンで優れた静粛性を実現しました。



* SUVとして (EV、プラグインハイブリッド車を除く)。2013年11月現在。Honda調べ。

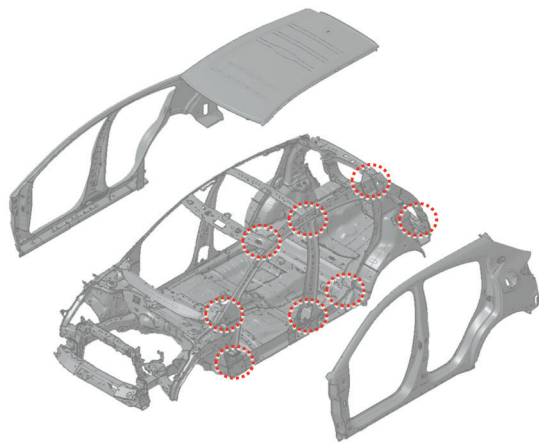
高い安心感と上質な乗り心地をもたらす、軽量高剛性ボディ。

インナーフレーム構造や超ハイテン材(高張力鋼板)の採用により、強固なボディ骨格を効率的に形成。そのうえで、フロントまわり、リアまわりを効果的に補強し、サスペンションをしっかり支え、リニアな走りを生む軽量高剛性ボディを完成させました。市街地でも高速道路でも、高い安心感と上質な乗り心地を提供します。

軽量化と高剛性化を両立したインナーフレーム構造

骨格部材を組み立ててから外板パネルを溶接するインナーフレーム構造を採用。継ぎ手部分の立体断面を確保したまま溶接することで高い剛性を獲得するとともに、補強のためのガセットやボルトを不要とし軽量化に貢献しています。

■インナーフレーム構造(高効率継ぎ手)適用箇所



適用箇所

縦横安定性をさらに高める各部の補強

■補強箇所

●ダッシュロアクロスメンバー

フロントサイドフレームの根元部にクロスメンバーを配置。フロント接地点剛性を高めました。

●フロントサブフレーム&ブラケット

フレームの剛性を高めたいうえでブラケットを採用しボディと強固に結合。フロントまわりの剛性を高めました。

●テールゲート開口部

連続閉断面の強固な環状骨格を形成しリアまわりの剛性を向上。

●パフォーマンスロッド

トーションビーム取り付け点にV字型パフォーマンスロッドを採用しリアまわりの剛性を向上。

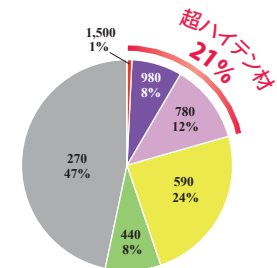
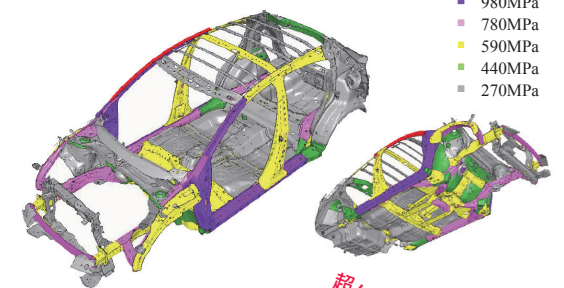
●リアサスペンション取り付け点

リアクロスメンバーとリアピラーを大型ガセットで結合。強固な環状骨格を形成することでリアまわりの上下剛性を高めました。

超ハイテン材の採用

軽量で強度の高い超ハイテン材(高張力鋼板)をボディ骨格全体の21%に採用。フロントピラーに1,500MPa級のホットスタンプ材、サイドシルに980MPa級の超ハイテン材を適用するなど、要求強度に応じて使い分けることで、優れたボディ剛性と高い衝突安全性能を持つ軽量ボディを実現しました。

■ハイテン材適用箇所と使用比率グラフ

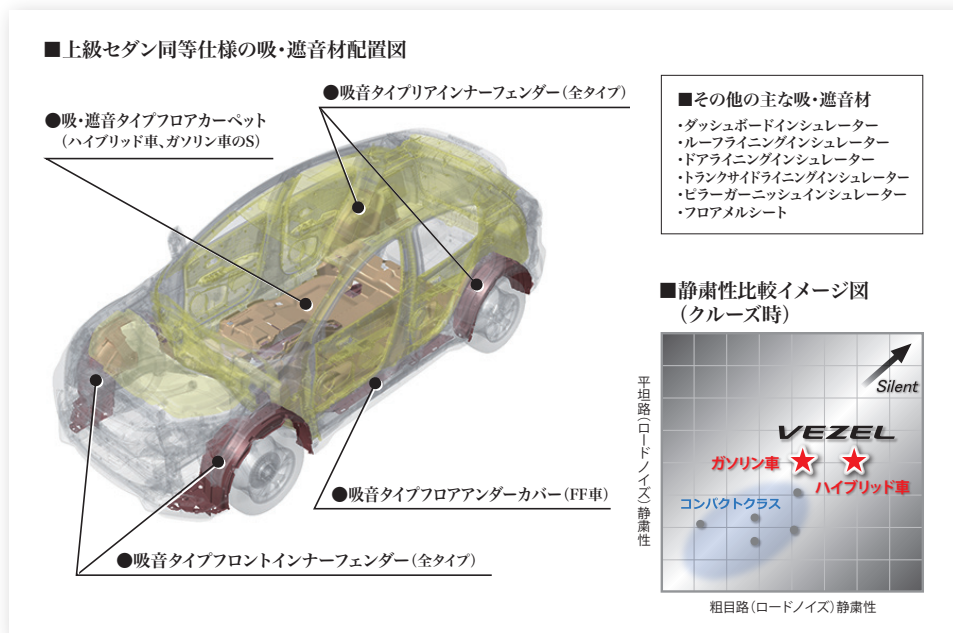


ゆとりと上質が感じられる毎日のために、室内の静かさを徹底的に追求。

上級セダン同等の高性能な吸音材や遮音材を採用するとともに、風切り音を徹底的に低減し、クラス^{※1}を超えた静粛性を達成。高速走行時においても前後席で会話を楽しめる上質な室内空間を実現しました。

上級セダン同等の制振・防音パッケージ

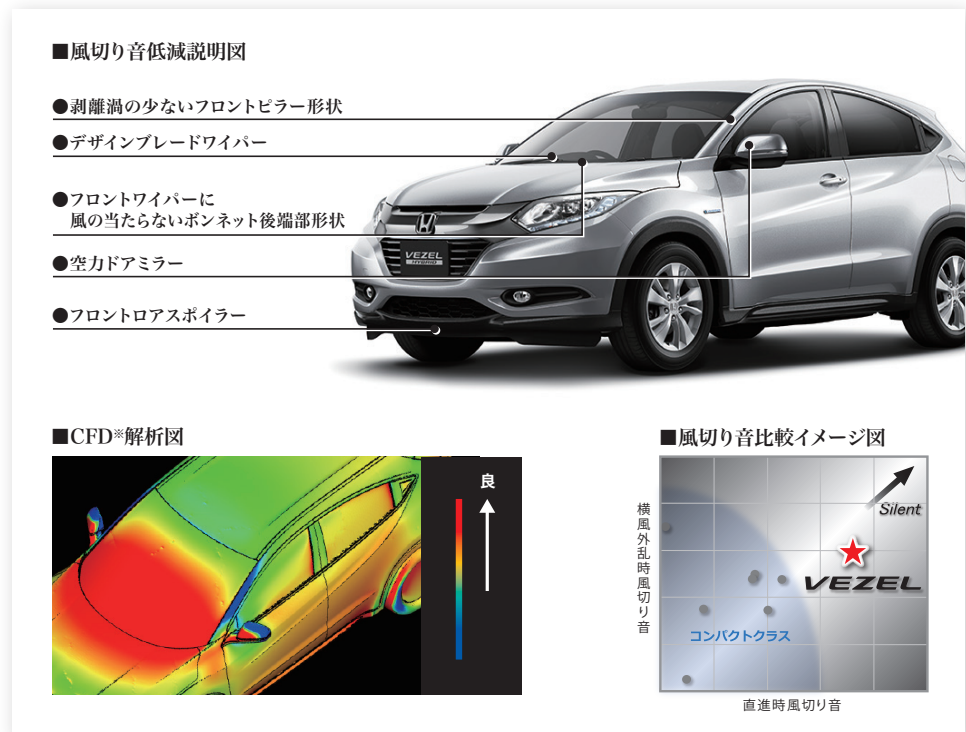
エンジンノイズに対しては、エンジンマウントレイアウトの適正化や各部の共振コントロールにより、ノイズの原因となる振動を徹底的に低減。外部ノイズは、その侵入口となるすき間を最小化したうえで、吸音材や遮音材を効果的に配置しました。なかでも下まわりには、上級セダン同等仕様の吸・遮音材を採用。不織布タイプのフロアアンダーカバー^{※2}や吸音構造のインナーフェンダーによってロードノイズを効果的に抑制したうえ、フロアカーペットにはラバー層を持つ高遮音タイプを採用^{※3}。ドアやピラーの防音も徹底し、乗り込んだ瞬間から、加速、クルーズにいたるまで、さまざまなシーンで静かさが感じられる上質な室内空間を実現しました。



※1 1.5L~2.0LクラスのSUVとして、2013年11月現在。Honda調べ。
 ※2 FF車 ※3 ハイブリッド車及び、ガソリン車のSタイプ。

高速走行時の静粛性をさらに高める風切り音対策

ボンネット後端部やフロントピラー、ドアミラーを空力効果の高い形状にするとともに、フロントロアスポイラーを採用し、風の流れをスムーズ化しました。さらに、フロントドアウィンドウに上級セダン並の厚板ガラスを採用し、風切り音を大幅に低減。



※ Computational Fluid Dynamics=計算流体力学

優れた燃費性能と安定感のある走りに貢献する、 クラストップレベル※の空力性能。

CFDと風洞テストによる解析と実走によって風の流れを徹底的に検証。空気抵抗の低減だけでなく、前後のリフトバランスをも最適化し、燃費性能と走行安定性を高い次元で両立させました。

空気抵抗の低減による燃費性能の向上

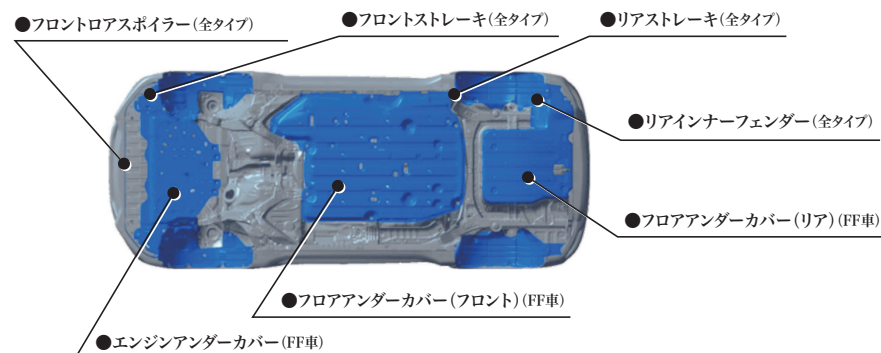
リアに向かってなだらかに絞り込んだエアロキャビンと、側面にまで回し込んだテールゲートスポイラーで、ルーフのみならずボディサイドからの風の巻き込みをも低減。ボディ下部は、アンダーカバーを設置してフラット化するとともに、フロントロアスポイラーとストレーキにより風の乱れを最小化しました。さらに、フロントピラー、ドアミラー、リアコンビネーションランプの形状を最適化し空気抵抗を徹底的に低減。燃費性能の向上に大きく貢献しています。



※ 1.5L～2.0LクラスのSUVとして、2013年11月現在。Honda調べ。



■ボディ下面空力パーツ配置図



前後リフトバランスの最適化による走行安定性の向上

フロントロアスポイラーやテールゲートスポイラーの形状を工夫し、空気抵抗への影響を最小限に抑えながら、走行中に空気がボディを浮かそうとする力「リフト」の前後バランスを最適化。高速走行中でもふらつきにくい、快適な走りを追求しました。

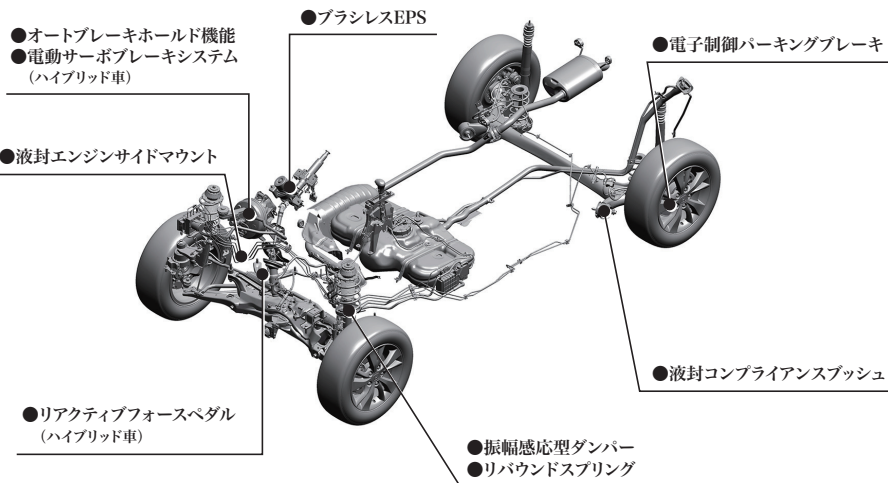
上質な乗り心地とリニアなハンドリングを高次元で両立した、先進のシャシーシステム。

ゆたかのグラウンドクリアランスを持つハイライダーでありながらも、セダン感覚の上質な乗り心地とリニアなハンドリングを追求。重心とロールセンター高を低く抑えるとともに、安定感のある前下がりロール姿勢を実現したうえで、ダンパー減衰特性の最適化などにより、乗り心地と操縦安定性を高い次元で両立させました。

乗り心地と操縦安定性を両立させ、スペース効率にも優れたサスペンションシステム

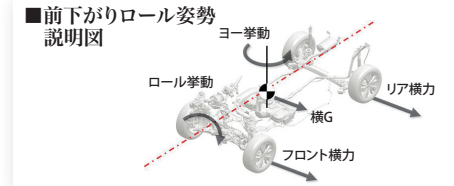
フロントにスペース効率に優れたマクファーソン・ストラット式、リアにはH型トーションビーム式サスペンションを採用。専用設計により、ワイドトレッドと低ロールセンター高を実現したうえで、振幅感応型ダンパーやリバウンドスプリング、液封コンプライアンスブッシュを採用し、乗り心地と操縦安定性を高い次元で両立させました。また、リアサスペンションをコンパクト設計とすることで、ハイブリッドシステム主要部品の荷室床下配置を実現。ハイブリッド車やハイブリッドAWD車においても、ガソリン車同等の使いやすい荷室を実現しています。

■主なシャシー技術 (FF車)



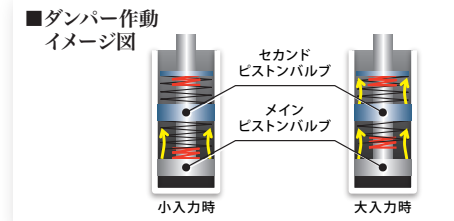
優れた操縦安定性と安心感をもたらす、低く前下がりのロール姿勢

フロントのロールセンター高をリアに対し低く設定し、前下がりロール姿勢を実現。コーナリング時の優れた応答性と操縦安定性を獲得するとともに、自然なロール感で安心感も高めました。



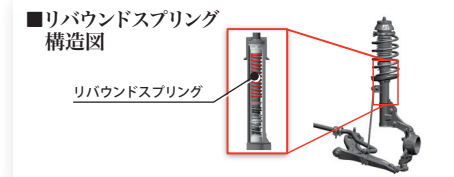
走行シーンに応じて最適な減衰特性を発揮する振幅感応型ダンパー

フロントに採用した振幅感応型ダンパーは、メインピストンバルブに加え、セカンドピストンバルブを備えています。フラットな路面でストロークが短いとき(小入力時)には、主にメインピストンバルブが作用し低い減衰力で乗り心地を確保。タイトなコーナーなどでストロークが長いとき(大入力時)には、メインピストンバルブとセカンドピストンバルブがそれぞれ作用し、高い減衰力で車両姿勢を安定化します。ピストンスピードが同じであっても、シーンに応じた最適な減衰特性によって、乗り心地と操縦安定性を高い次元で両立させることに寄与しています。



旋回時の安定性を高めるリバウンドスプリング

サスペンションに大きな力が加わった際、伸び側のストロークを抑制するリバウンドスプリングをフロントサスペンションに採用。振幅感応型ダンパーとともに旋回時の姿勢を安定化します。



ドライブをスマートにアシストする先進機能。

ハイブリッド車に、アクセルペダルの反力によってさまざまな機能を実現したリアクティブフォースペダルをHondaの国内モデルとして初めて搭載しました。電子制御パーキングブレーキとオートブレーキホールド機能はガソリン車を含む全タイプに採用。ドライブをスマートにアシストします。

電子制御パーキングブレーキ

センターコンソールのスイッチを軽く引き上げるだけで作動する電子制御パーキングブレーキを全タイプに採用しました。簡単操作でしっかり確実に停車できます。また、アクセルペダルを踏み込むだけで自動的に解除し、スムーズな発進をアシスト。



オートブレーキホールド機能

センターコンソールの「BRAKE HOLD」スイッチを押してシステムを作動させると、信号待ちや渋滞などで停止した際、ブレーキペダルを放しても自動的に停車状態を保持するオートブレーキホールド機能を全タイプに採用。ブレーキペダルを踏み続けるわずらわしさがありません。アクセルペダルを踏み込むと解除します。

■ 作動イメージ図



電動サーボブレーキシステム

ハイブリッド車に、可変サーボレシオ制御付きの電動サーボブレーキシステムを採用しました。ECUとモーターにより、ペダル踏力に対するブレーキ液圧を素早く最適に制御。減速回生中のシフトチェンジにも対応し、ブレーキの踏みはじめから停止間際まで、効率的な減速回生を行います。さらに、走行速度に応じて制動力を最適にコントロールする車速応動制御と、減速するほど効き方が強まるビルドアップ特性制御により、ドライバーの感覚に合ったブレーキフィールを実現しています。

エコドライブを支援するリアクティブフォースペダル

アクセルペダルの反力とマルチインフォメーション・ディスプレイの表示により、触覚と視覚でアクセル操作を支援。さらに、シティブレーキアクティブシステムとの協調制御で効果的な注意喚起を行います。

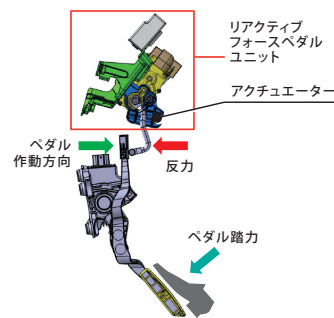


● **エコドライブへの自然な誘導**
 ドライバーが燃費のよい領域を超えてアクセルペダルを踏み込もうとした場合、ペダルを“やや重く”することで踏みすぎを抑制。絶妙な反力設定で違和感なくエコドライブに誘導し、実用燃費の向上に寄与します。

● **雪道などでのアクセル操作を支援**
 雪道などのすべりやすい路面状況において、ドライバーがタイヤのグリップ限界を超えてアクセルペダルを踏み込もうとした場合、ペダルを“やや重く”制御しスムーズなアクセル操作を支援します。

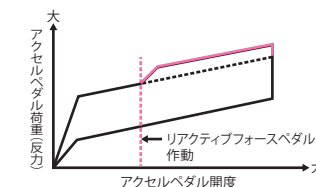
● **シティブレーキアクティブシステムとの協調**
 シティブレーキアクティブシステムの低速域衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能が作動した場合、「コンコン」とノックするようにペダル反力を制御し、危険を体感的に知らせます。

■ システム構成図

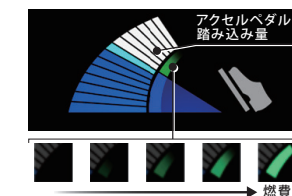


アクセルペダル上部に配置したアクチュエーターが状況に応じて反力を発生。

■ 反力変化イメージ図



■ マルチインフォメーション・ディスプレイ表示例



アクセルペダルの踏み込み量と連動し外側のインジケータ色が変化。燃費のよい運転になるほど内側のグリーンサインが明るく点灯。

力強い走りと優れた燃費性能を両立した、 新世代エンジンとCVT。

ガソリン車には、Honda独創のVTEC+VTCに直噴技術を加え、圧倒的なハイパワーを達成した新世代1.5L 直噴 DOHC i-VTECエンジンを採用。伝達効率に優れた新世代CVTと組み合わせることで、力強く爽快なドライブフィールと優れた燃費性能を獲得しました。

EARTH DREAMS
TECHNOLOGY

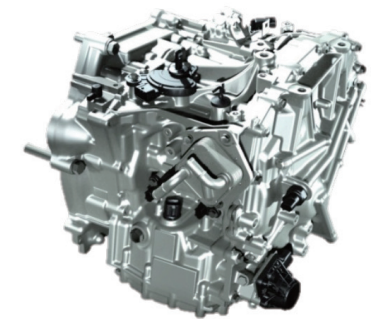
圧倒的なハイパワーと低燃費を両立した1.5L 直噴 DOHC i-VTECエンジン

Honda独創のVTEC+VTCに加え、燃料をシリンダー内に直接噴射することで燃焼効率を高める筒内直接噴射技術を採用しました。高圧のマルチホールインジェクションによって微粒化した燃料を直接噴射するとともに、シリンダー内に強いタンブル流(縦うず)を生成。混合気の均質化を促進することで、より高効率な燃焼を実現しました。さらに、VTEC(可変バルブタイミング・リフト機構)とVTC(連続可変バルブタイミング・コントロール機構)、2つの可変バルブ機構が、走行状況に応じて吸気バルブを最適に制御。低速から高速まで全域にわたってトルクフルな走りを獲得しました。また、キャパシタ電源アイドリングストップシステムや高効率なCVTの採用などにより、優れた燃費性能も両立しています。

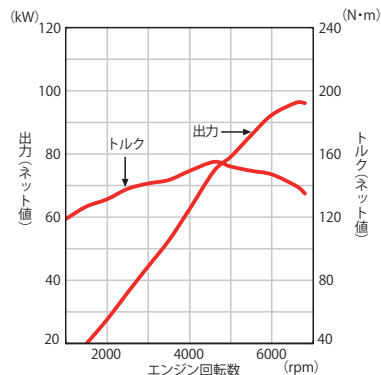


スムーズで力強い加速と低燃費を両立した新世代CVT

従来CVTに対し、加速性能と燃費性能を大幅に高めた新世代CVTを採用しました。高強度ベルトや摩擦係数の高い専用オイルにより動力伝達効率を向上させたうえ、レシオレンジを約8%拡大。ワイド化したレシオレンジを主にロー側に活かすことで、力強い発進加速性能を獲得しています。また、オイルポンプの容量最適化や各部フリクションの低減により、CVT単体として約5%の低燃費化を達成。機能部品の集約と小型化・薄肉化などにより10%の軽量化も実現しています。また、Sタイプには、マニュアル車感覚の変速操作が楽しめる7スピードモード+パドルシフトを備えました。



■エンジン性能曲線図

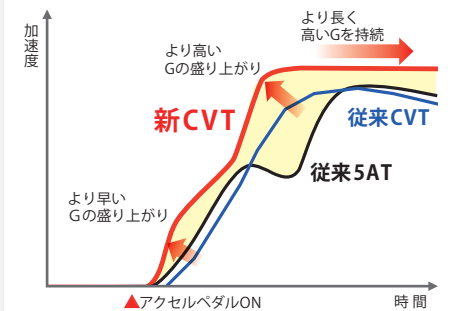


- 最高出力
96kW[131PS]/6,600rpm
- 最大トルク
155N・m[15.8kgf・m]/4,600rpm
- JC08モード走行燃料消費率(国土交通省審査値)
20.6km/L G(FF)、X

リニアで爽快な走りを生む協調制御「G-design Shift」

DBWによるスロットル制御と協調しながらプリー作動油圧を高精度に制御し、ドライバーのアクセル操作に対する変速レスポンスを向上。発進時やキックダウン時に、タイムラグの少ない俊敏な加速を実現するとともに、アクセル操作にリニアな伸びのある加速フィールを獲得しています。

■キックダウン特性図



力強い走りとクラストップ※1の低燃費を軽量コンパクトに両立した 新世代1モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID i-DCD」※2



軽量コンパクトな1モーターシステムでありながら、モーターのみのEV走行を実現した「SPORT HYBRID i-DCD」をパワーアップして搭載しました。エンジンに直噴技術を採用し、システム最高出力112kWという、2.0L エンジンに匹敵するハイパワーを発揮。状況に応じて、3つの走行モードを知的に使い分けることで、クラストップ※1の低燃費も達成しています。

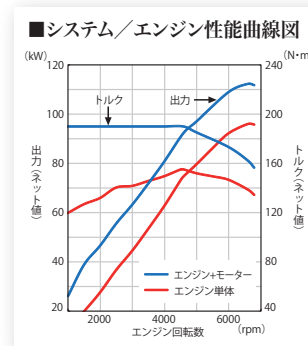
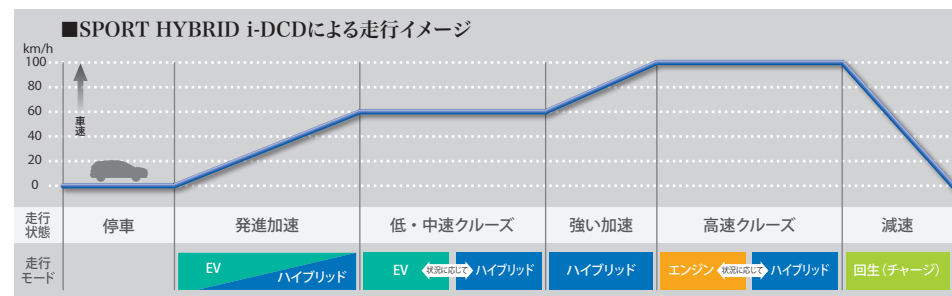
力強い走りとクラストップ※1の低燃費を軽量コンパクトに両立

「SPORT HYBRID i-DCD」は、1.5L 直噴 DOHC i-VTECエンジンに、高出力モーター内蔵7速DCT※3、リチウムイオンバッテリーとパワードライブユニットを一体化したIPU※4、を組み合わせた新世代の1モーターハイブリッドシステムです。DCTクラッチがエンジンとモーターの接続・切断を兼ねることで、モーターのみのEV走行を軽量コンパクトに実現。クラストップ※1の低燃費を達成すると同時に、力強い加速Gとリズミカルで伸びのある加速感により、FUNな走りを実現しました。

3つの走行モードを使い分け圧倒的な低燃費と力強い走りを両立

「SPORT HYBRID i-DCD」は、走行状況に応じて、3つの走行モードのなかから最も効率のよいモードを自動的に選択。発進や市街地での低速クルーズなどモーターが得意とするシーンではモーターのみの「EVドライブモード」で静かに走行。加速時は、モーターとエンジン両方の駆動力を使う「ハイブリッドドライブモード」で力強い走りを生み出します。高速クルーズなどエンジン効率が良いシーンでは、エンジンのみの「エンジンドライブモード」で走行。きめ細やかな走行充電制御や効率的な減速回生で、エネルギーを無駄なく利用します。

- 1.5L 直噴 DOHC i-VTECエンジン**
 Honda独自のVTEC+VTCに直噴技術を加え、圧倒的なハイパワーと低燃費を両立。
- 電動サーボブレーキシステム**
 ブレーキ液圧をECUとモーターで制御し踏み始めから停止直前まで効率的に減速エネルギーを回生。可変サーボレシオ制御により、コントロールラブルで安心感の高いブレーキフィールも実現。
- IPU**
 高出力・大容量リチウムイオンバッテリーとパワードライブユニットをコンパクトに一体化し荷室床下に搭載。
- エアコン用電動コンプレッサー**
 アイドリングストップ時やEVドライブ時にもエアコンを稼働させ快適性を確保。エンジン負荷を低減し燃費にも貢献。
- 高出力モーター内蔵7速DCT**
 優れた伝達効率とダイレクト感ある加速などの特長を持つマニュアルトランスミッションの構造を基本に、奇数段用と偶数段用、2系統のギアセットとクラッチで自動変速化。エンジンとモーターの接続・切断を可能とし走りや燃費に大きく貢献。高出力モーターをトランスミッションケースに内蔵。トランスミッションオイルを用いた冷却システムにより、従来モーター同等のコンパクトサイズで大幅な高出力化を達成。



□システム最高出力※5

112kW [152PS]

□JC08モード走行燃料消費率 (国土交通省審査値)

27.0km/L

HYBRID (FF)

エンジン

- 最高出力 97kW[132PS]/6,600rpm
- 最大トルク 156N・m[15.9kgf・m]/4,600rpm

モーター

- 最高出力 22kW[29.5PS]/1,313-2,000rpm
- 最大トルク 160N・m[16.3kgf・m]/0-1,313rpm
- 定格電圧 173V

リチウムイオンバッテリー

- 容量 5.0Ah

※1 SUVとして(EV、プラグインハイブリッド車を除く)。2013年11月現在。Honda調べ。
 ※2 i-DCDは、Intelligent Dual Clutch Drive(インテリジェント・デュアル・クラッチ・ドライブ)の略。
 ※3 デュアル・クラッチ・トランスミッション ※4 インテリジェントパワーユニット

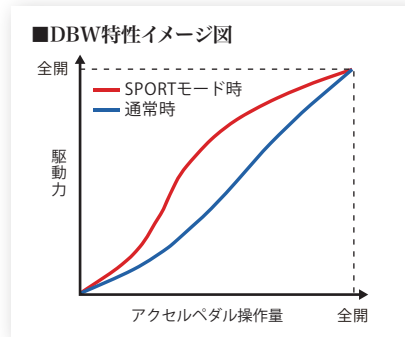
※5 エンジンとモーターによるシステムとして発揮できる出力。Honda測定値。

ハイブリッド車に、走りの楽しさをさらに広げるSPORTモードを搭載。 リアルタイムAWD<インテリジェント・コントロール・システム>も設定。

ハイブリッド車に、エンジン、モーター、トランスミッションなどを統合制御することで、よりハイレスポンスな加速と力強い走りを実現するSPORTモードを搭載。優れた走破性と燃費性能を両立するリアルタイムAWDは、ハイブリッド車を含む全タイプに設定しました。

直噴エンジンのハイパワーとDCTのダイレクト感が堪能できるSPORTモード

SPORTモードをオンにすると、ドライバーのアクセルペダル操作量に対し、通常よりも大きな駆動力を発生するようDBWとモーターを制御。DCTは、通常よりも高めのエンジン回転域を使用する変速特性とし、ハイレスポンスで伸びのある加速をもたらします。アイドリングストップやEV走行は行わず、加速感と一体となったエンジンサウンドで走りの楽しさを強調。



パドルシフト

ハイブリッド車全タイプにパドルシフトを装備。SPORTモード時は、自動変速モードに復帰しないマニュアル変速モードに固定し、直噴エンジンのハイパワーとDCTのダイレクト感を堪能できる設定としました。



メーター

照明色をレッドに切り替えるとともに、マルチインフォメーションディスプレイにSPORTメーター(エンジン回転計)を表示し、走りの高揚感を高めます。



SPORTモード時点灯イメージ

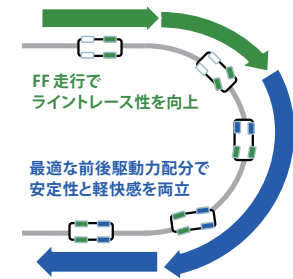
リアルタイムAWDをヴェゼルベストにセッティング

電子制御で後輪の駆動力を緻密かつ素早くコントロールするリアルタイムAWDを全タイプに設定。各種センサーにより走行状況を検知し、前輪が空転する前に後輪へ駆動力を伝達するとともに、前後輪の駆動力配分を緻密に行うことで、雪道での発進やコーナリング、登坂などで優れた走破性を実現します。これに加え、電子制御の特徴を活かしたヴェゼルベストのセッティングにより、雪道などすべりやすい路面において、安心感と軽快感のあるコーナリング特性を実現しました。

●コーナー進入時

コーナー進入(アクセルオフ)時はFF走行とし、アンダーステアを抑制してライントレース性を向上。

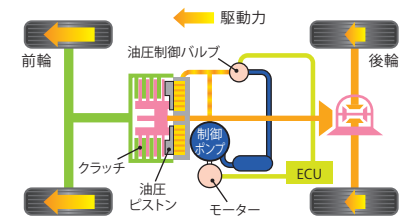
■ヴェゼル専用セッティングイメージ図



●旋回加速時

ドライバーが加速に転じると、素早く後輪へ駆動力を伝達。路面状況やドライバーのアクセルペダル操作に応じて、前後駆動力を最適に配分します。おだやかな加速では、安心感の高いニュートラルステアとなるよう駆動力を配分。ドライバーが強い加速を求めた場合は、安定性を確保したうえで、後輪の駆動力がより大きくなるよう制御し、後輪トルクで旋回していくような弱オーバーステアまで楽しむことができます。

■構造図



毎日の安心感と快適性を高める先進装備。

Honda インターナビ+リンクアップフリー+ETC車載器<ナビゲーション連動>(メーカーオプション)

静電式タッチパネルを採用し、スマートフォン感覚の直感操作を実現。インターナビ・リンクプレミアムクラブのリンクアップフリー(専用通信機器+通信費無料※1)に対応し、費用を気にせず多彩な情報サービスをフル活用できます。フルセグ対応により高画質な地上デジタルテレビ放送を楽しめるほか、3ビュー切り替え式のリアワイドカメラやETC車載器も標準装備しています。



●スマートフォン感覚の操作



フリックやピンチイン/アウトなど指先で軽快な操作が可能。タッチパネルの感度を高め、手袋を装着したままでの操作にも対応※2

●優れた接続性



HDMI※、USB、Bluetooth※に対応し、有線/無線で多彩なデジタル機器が利用可能。Bluetooth※でのワイヤレス音楽再生やハンズフリー通話にも対応

●Siri®アイズフリー対応



Siri®と連携し、Bluetooth®で無線接続したiPhone®を音声だけで操作。iPhone®を鞆などに入れたままでも音楽再生や電話の受発信、メール送信などが可能※3

※1 専用通信機器は音声通話には対応していません。※2 厚手の手袋やゴム手袋などでは操作できません。※3 音声認識機能はiPhone®のシステムに依存します。走行中などの使用条件により、音声を認識できない場合があります。Siri®の機能を使用中は、ナビゲーションの音声認識機能は使用できません。

インターナビ・リンク プレミアムクラブ

膨大かつ最新のデータを活用した「早く正確」なルート案内や、ユーザーにマッチしたタイムリーな情報提供などで豊かなカーライフをサポートするインターナビ・リンクプレミアムクラブ。新車購入時から初回車検月まで3年間、半年ごとの全地図更新と、リンクアップフリー通信による新規道路データ配信を無償で提供する「スマート地図更新サービス」や、事故の衝撃でエアバッグが作動した際など、救急救命に必要な事故情報などをヘルプネット®に送信し、よりの確な救助活動に役立てる「緊急通報サービス(ヘルプネット®)」といった最新サービスに対応しています。

操作性に優れ、スタイリッシュな静電式タッチパネル採用エアコン

エアコン操作部に、スマートフォンのようにフリック操作で、温度や風量の調節が素早く行える静電式タッチパネルを採用。シートヒーター※の操作も行えます。インストルメントパネルと一体化したフラットなデザインで、皮脂などが目立ちにくいアンチグレア(反射防止)処理も施しています。

※タイプ別設定。



便利な機能を備えたドアミラー

リバース連動ドアミラーをHYBRID Zに装備しました。シフトレバーを[R]に入れると、助手席側ドアミラーの鏡面が自動で下向きになり、左後輪付近の視認性を向上させます。また、HYBRID Zの電動格納はスマートキーと連動。施錠後、再度、施錠ボタンを押し続けると格納します。開錠し運転席ドアを開けると自動で展開します。

■リバース連動ドアミラー



全ドアワンタッチ式パワーウィンドウ(タイプ別設定)

ワンタッチで自動昇降する機能をすべてのパワーウィンドウに備えた、全ドアワンタッチ式パワーウィンドウを採用しました。スマートキーでのリモコン操作も可能。施錠または開錠後に、再度、ボタンを押し続けるとすべてのドアウィンドウが全閉/全開します。降車後の閉め忘れ防止や乗車前の換気に役立ちます。



2回押し、2回目を長押しするとすべてのドアウィンドウが全閉/全開

主要装備

主要装備

● は標準装備 ○ はメーカーオプション

タイプ	1.5L i-VTEC+I-DCD				1.5L i-VTEC			
	HYBRID		HYBRID X		HYBRID Z	G	X	S
	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	FF
安全装備	● マルチリフレクターハロゲンヘッドライト(マニュアルレベリング機構付) ● LEDヘッドライト(ロービーム、オートレベリング/オートライトコントロール機構付) ● あんしんパッケージ(シティアレキアクティブシステム、前席用・サイドエアバッグシステム(容量変化タイプ)・サイドカーテンエアバッグシステム(前席/後席対応))							
車間接近通報装置	●							
【全タイプ標準装備】	● 運転席用・SRSエアバッグシステム(運転席容量変化タイプ) & 助手席用SRSエアバッグシステム ● VSA(ABS+TCS+横滑り抑制) ● Motion Adaptive EPS ● EBD(電子制御制動力配分システム)付ABS ● エマージェンシーブレーキ ● ヒルスタートアシスト機能 ● フロント3点式ロードリミッター付リアテンションERシートベルト ● フロントアジャスタブルシートベルトショルダアンカー ● リア3点式ロードリミッター付ELRシートベルト(左右側) ● リア3点式ELRシートベルト(中央席) ● 汎用型ISOFIXチャイルドシート/リアアンカレッジ(リア左右側)トップテザーアンカレッジ(リア左右側) ● 頭部衝突緩和フロントシート ● リアヘッドレスト(3席) ● 頭部衝突保護インテリア ● 運転席/助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー & 警告灯(シートベルトリマインダー付) ● LEDハイマウントストップランプ ● タブルホーン ● チャイルドロック ● 半ドア警告灯							
環境装備	● エコアシスト(ECONモード、コーチング機能、ティール機能) ● エコアシスト(ECONモード、コーチング機能) ● リアクティブフォースペダル ● フラットアンダーカー 【全タイプ標準装備】 ● アイドリングストップシステム ● フロントロスボイラー ● ストレーキ(フロントリア)							
快適装備	● SPORTモードスイッチ ● グレースコントロール(照明付ステアリングスイッチ付) ● パワースイッチ(スイッチ照明付) ● Honda インターナビリンクアップフリー+ETC車載器(ナビゲーション連動) ● ナビ装着用スペシャルパッケージ ● スピーカー数 ● 運転席スイッチ照明/運転席ドアワンタッチ式/運転席読み込み防止機構/ ● パワーウインドウ ● 全ドアスイッチ照明/全ドアワンタッチ式/全ドア読み込み防止機構/ ● 全ドアキーオフパレション機構付 ● フルオートエアコンディショナー ● 左右独立温度コントロール式フルオートエアコンディショナー ● 運転席&助手席シートヒーター ● 電動格納式リモコンカラードアミラー ● スマートキー連動							
【全タイプ標準装備】	● Hondaスマートキーシステム(アンサーバック/ウェアラブル機能付、Hondaスマートキー2番付) ● イモビライザー(国土交通省認可品) ● セキュリティアラーム(国土交通省認可品) ● アレルフリー高性能脱臭フィルター ● デュアルロック & 手動リスタートリッキング ● 照明付パワードアロックスイッチ(運転席下付) ● 車速連動オートドアロック(テールゲート連動) ● オートディオレス ● ライト消し忘れ警告ブザー ● 電子制御パーキングブレーキ ● ガートブレーキホールド機能 ● ウォッチウイングカー ● フリズラムアンダーミラー							
インテリア	● マルチインフォメーションディスプレイ(ECDライブ/ディスプレイ/エネルギー/SPORTモード/エンジン/回転計/経過時間/消費電圧/オドメーター/リミッター/平均燃費/平均燃費/燃費消費/燃費消費/燃費消費表示機能 他) ●2 ● インフォメーションディスプレイ(オドメーター/トリップメーター/外気温/平均燃費/開閉燃費/推定航続可能距離/燃費表示機能) & タコメーター ● 本革巻ステアリングホイール ● 本革巻シフトレバー ● ステンレス製スポークペダル(アクセルペダル&ブレーキペダル) ● ハイブリッド専用シフトレバー ● ハイブリッド専用デザインメーター ● パナミラー付サンバイザー(運転席側(チケットホルダー付)/助手席側) ● ハイデキセンターコンソール(マルチユーティリティドリンクホルダー(前席用)/ドリンクホルダー(後席用)/アームレスト付コンソールボックス付) ● アクセサリーポケット(DCDW(フロントコンソールボックス内)/センターコンソールボックス後部) ● コンビシート ^{*1} & 専用インテリア ● 本革シート ^{*2} & 専用インテリア ● シートバックポケット(運転席) ● クロームメッキエアコンアウトレットリング & インナードアハンドルリング ● クロームメッキエアコンアウトレットノブ & スピーカーリング ● 防眩ルームミラー ● トノカバー ● ラグジュアリームハードボード							
【全タイプ標準装備】	● プラック ● 3Pポケット(運転席/助手席) ● ボトルホルダー(全ドア) ● リアアームレスト ● 運転席フットレスト ● 運転席/ハイブリッド専用(ラチェット式) ● チップアップ & ダイヤダウン機構付6.45リットル式リアシート ● インターリンクライティング機構 ● 燃料残量警告表示 ● フロントコンソールボックス ● シートバックポケット(助手席) ● グラブレード(運転席側/助手席リア左右) ● コートフック(リア右側) ● LEDフロントマップランプ(スイッチ照明付) ● LEDルームランプ(スイッチ照明付) ● ラグジュアリームランプ ● タイダウフック(4点席) ● ラグジュアリームアンダーボックス ^{*4} ● クロームメッキインナードアハンドル							

● は標準装備 ○ はメーカーオプション

タイプ	1.5L i-VTEC+I-DCD				1.5L i-VTEC			
	HYBRID		HYBRID X		HYBRID Z	G	X	S
	FF	4WD	FF	4WD	FF	4WD	FF	FF
エクステリア	● LEDポジションランプ ● フォグライト ● コンフォートビューパッケージ(鏡水ヒーター/フロントドアミラー、フロントドアミラー、熱断熱リフレクトウインドウ) ● HYBRIDエンブレム(テールゲート、フロントフェンダー) ● AWDエンブレム(テールゲート) ● AWDブリッド専用フロントグリル ● クロームメッキフロントアウトドアハンドル ● ボディアロアグニッシュ(フロントバンパー/ロアグニッシュ、サイドシル/グニッシュ、リアバンパー/ロアグニッシュ、ホイールアーチプロテクター) ● ルーフレール ● LEDリアコンビネーションランプ ● 車速連動間欠/リアブル間欠フロントワイパー(ミスト機構付) ● エキバイフィニッシュ ● 【全タイプ標準装備】 ● UVカット機能付フロントウインドウ ● 高熱線吸収UVカット機能付フロントドアガラス ● UVカット機能付プライバシーガラス(リア/リアテールゲート) ● ハーフシェードフロントウインドウ ● 熱線式リアウインドウデフォグガー ● LEDドアミラーウィンカー ● シャークフィンアンテナ ● テールゲートスポイラー ● フロントウインドウウォッシャー(2ノズル/スプレータイプ) ● ウォッシャー付間欠リアワイパー(リソース連動) ● LEDリアラセンランプ							
足まわり/走行関連メカニズム	● バドルシフト ● 16インチスチールホイール+スチールラジアルタイヤ(Q15/60R16 95H)+フルホイールキャップ ● 16インチアルミホイール+スチールラジアルタイヤ(Q15/60R16 95H) ● 17インチアルミホイール+スチールラジアルタイヤ(Q15/55R17 94V) ● 17インチアルミホイール(スポーツタイプ)+スチールラジアルタイヤ(Q15/55R17 94V) ● 電動サーボパークシステム ● リアスタビライザー ● 【全タイプ標準装備】 ● フロントベンチレーテッドディスプレイ ● リアディスプレイ ● 駆動感応型タンパー(フロント) ● フロントスタビライザー ● DBW(ドライブ/ハイ/ワイヤ) ● 応急バリエーション(スペアタイヤレス)							

*1 カンリオン車は「リソース」に替わり「ッシュエンジンスター/ストップスイッチ」が装備されます。 *2 「外気温表示機能」/「時計表示機能」はメーター内左側のディスプレイに表示されます。 *3 HYBRID Zは「アクセサリキット(DCDW)」がオプションでも装備されます。 *4 ハイブリッド車とガソリン車、FF車と4WD車でそれぞれ異なる形状があります。 *5 カラー付ボディカラーはボディと色の見え方が多少異なります。
*1 コンビシート: フロントシートと座席間もたれたい部分、ヘッドレスト前面に本革を使用、リアシートはサイド部分、各シートの側面、フロントシートの背面、シートバックポケットなどにはプライムスームスを使用しています。
*2 本革シート: 各シートと座席間もたれたい部分、ヘッドレスト前面に本革を使用、各シートの側面、フロントシートの背面、シートバックポケットなどにはプライムスームスを使用しています。
*3 仕様に合わせて装備は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。 *4 写真は実際の色と多少異なることがあります。 *5 Honda インターナビ装着車には専用通信機器が装着されます。

